

宇治支援学校の言葉

ウジシエンガッコウのことば

平成23年度 No. 6 3/9発行

京都府立宇治支援学校

〒611-0031 京都府宇治市広野町丸山10
TEL 0774-41-3701 / FAX 0774-45-2220

「贈ることば」

春を告げる花が梅から桃へ、桃から桜へと移り変わろうとしています。紫式部も清少納言もこの美しい季節のうつろいに心を動かされ、繰り返されてきた花と鳥と風と月の物語を私たちに残してきました。

そして、3月9日と3月15日は、私たちにとって特別な一日です。

宇治支援学校は第1回の卒業式の朝を迎え、初めての高等部卒業生21名、小学部12名、中学部15名を送り出します。この日の喜びを迎えられたのも、保護者の皆さまのお子たちへの深い愛情と献身的な御努力があったのことと思います。また、地域の皆さまの温かい御支援のお陰と感謝いたします。地元地域の学校、関係機関の皆さまの御理解・御協力によるところ誠に大であります。

まず初めに皆さまに心からお礼を申し上げます。

卒業していく生徒と在校生223名にとってこの1年間はどんな1年だったのでしょうか。

昨年3月11日に東日本大震災があり、多くの命、財産、自然が失われました。一年たって、まだ復興は始まったばかりですが、災害に負けない日本の力は新しい形、新しい生活を見せようと東北にエールをおくり、みんなが立ち上がろうとしています。そんな日本の一年、忘れてはならない一年でした。

宇治支援学校の児童生徒にとってのこの一年は、この学校で新しい校舎、新しい友だち、新しい先生と一緒に学習・生活をした一年でした。この新しい環境で自分を成長させていくことは多くの困難があったに違いありません。

それを乗り越えて今があります。

児童生徒にはたったの一年、宇治支援学校には最初の一年、だからこそ、この一年は一生忘れてはならない一年となるはずです。

第一回の卒業生としてこの学校を巣立っていく児童生徒だけが、歌える歌があります。この歌を卒業式の朝に歌えるのです。

思い出や成長の証は学校生活が同じ環境で12年間、あるいは3年間あったほうが豊かなものとなったかもしれません。しかし、人生は長い、短いだけでは決められません。

本当の忘れられない時間はこの宇治支援学校で過ごした一年間にもあったのではないのでしょうか。去年の4月13日竣工・開校入学式で初めて出会った児童生徒の皆さんと約束したことがあります。宇治支援学校としてひとつになろうという約束でした。約束はこの卒業式で果たせました。みんなはひとつになっています。来年度へ向けての更なる飛躍が期待できます。

皆さんの母校はここにあります。皆さんがつくった宇治支援学校は、これからも皆さんとともにあることを喜びとします。

卒業していく48名の皆さん、卒業おめでとう。

この一年間宇治支援学校を支援していただいた皆さまに重ねてお礼を申し上げます。

京都府立宇治支援学校
校長 松本 公雄

小学部



新しい学校に慣れることから始まった今年度でしたが、小学部の児童たちは、日々の授業・遊びの活動や「プレイフェスタ」「校外学習」「うじ えんー J O Y フェスタ」などの行事の取組を通して、大きく成長してくれました。

一緒に活動し、支えあう中で友だちとのつながりも広がっています。これからも小学部では人とのつながりを豊かし、よりよく生活していくために必要な力をつけていくことを目指していきたいと思います。

中学部



宇治支援学校で迎えた1年は、生徒達にとって、新しい校舎、指導者、仲間との出会いから始まりました。4月からの日常の学習や2学期以降の行事等でそれぞれが仲間と目的をともにし、助けあい、協力して取り組むことで学年、学部の仲間意識ができました。また、地域に出かける時のマナーやルールを学び、校内での実践を通して校外へ出かけ成果を発揮しました。高等部や進級に向けて3学期は、先輩になる、高等部に行くということを意識して掃除や作業学習、小学部6年生との合同学習等に取り組むことができました。

来年度は、宇治支援学校での先輩として、新しく入学してくる生徒達とともに、さらに活躍してくれることを期待しています。

高等部



～信じるということ～

21名の生徒が第1期生として宇治支援学校を卒業します。答辞ではお父さん、お母さん、先生、保健室の先生等お世話になった方への感謝の気持ちがたくさん聞かれました。そして、「努力し続けることは、とても難しくしんどいです」「しかし自分で決めたこと、約束したことを最後までやり通すことが大切です。」と力強く語っていました。

『自分で決めて、やり抜く』ためにも、自分を信じること、相手を信じることから始めましょう。可能性を信じる自分と信じてくれる仲間との間に成長があることを生徒が教えてくれました。

卒業おめでとう、そしてありがとう。

SSC



宇治市・城陽市を支援エリアとする『地域支援センターうじ』は、今年度270件を超える相談支援を行いました。そのほとんどは小・中学校からの依頼によるものですが、高校生への支援依頼も徐々に増えつつあります。地域の学校（園）で学んでいる障害のあるお子さんが、自信を持って勉強したり生活できるよう、担任の先生や保護者の方も含めて一緒に相談を進めています。

府内全域を支援エリアとする『京都府スーパーサポートセンター（SSC）』は、2月24日（金）、宇治市文化センターにて「SSC事業報告会」を開催しました。

今年度の取組を報告した他、視覚障害のある光島さんの‘触る絵画展’と講演、府内の先進的な取組の紹介と併せて今後の特別支援教育を見据えたシンポジウムも行いました。出席された文部科学省の担当調査官からは、府内あげて頑張るこれらの取組に評価をいただきました。

次年度も、子ども達が生き生きと学び輝ける社会をめざして頑張っていきたいと思います。